



医学部だより

第40号

2020.4.1



ようこそ徳島大学医学部へ

医学部長 赤池 雅史

と思います。

徳島県は「阿波国」と呼ばれた時代から近畿ならびに全国と繋がる四国の玄関口で、江戸時代には藍産業の発展で阿波商人が全国で活発に活動する等、商業・企業が盛んな歴史があります。1889年（明治22年）に市制が施行された当時は徳島市の人口は国内第10位でした。このような経済基盤を背景として、徳島における医療機関の歴史は古く、幕末から明治に活躍した高名な蘭方医である関寛齋の功績により1870年に設立された徳島藩立医学校に端を発します。その後開校された徳島県立医学校が1886年に廃校となり、医療機関の無い時代が長く続きましたが、1943年に前身の県立徳島医学専門学校が開校され、戦後の1949年5月に四国唯一の国立大学医学部となりました。現在の蔵本キャンパスは旧陸軍兵舎を譲り受けたものですが、この地で医学部が誕生するにあたっては、徳島大学の初代医学部長・学長になられた中田篤郎博士ならびに教職員、学生、県・地元の熱意と努力があったと伝わっております。医学部基礎A棟の前には中田篤郎先生の碑があり、そこには「学者如登山」の書が刻まれています。これは「学べば学ぶほど山に登るように視野・見識が広がっていく」という意味であり、徳島大学医学部の教育の基本的姿勢と、徳島大学医学部設置に尽力された当時の関係者の大きな期待を示しています。

現在では、医学部は医学科、医科栄養学科、保健学科の3学科と、関係する大学院として医科学、栄養生命科学、保健科学の3つの教育部を有するまで発展し、さらに、蔵本キャンパスには、薬学部、歯学部、先端酵素学研究所、徳島大学病院等が

設置され、徳島大学病院は隣接する徳島県立中央病院とブリッジで繋がっている等、全国に類を見ない生命科学・医療系の教育・研究の一大拠点を形成しています。また、最近では常三島キャンパスとの連携を含め医工連携やイノベーション教育も活発に行われています。このような歴史と教育環境を踏まえ、徳島大学医学部は、徳島県のみならず四国地区の医療を支える人材を輩出するとともに、高度な医療と世界に発信できる医学研究を実践し、医療・医学の面から世界の課題の解決に取り組む使命を有しています。皆さんはその誇りと使命感を持って日々の学修に励んでほしいと思います。

少子高齢化への対応、高度専門化と全人的医療の両立、AIやICT等のテクノロジーの進歩がもたらす医療変革、安心・安全な医療の実践、遺伝子改変等の科学技術の進歩における医療倫理のあり方、地域貢献とグローバル化の両立等、医学・医療の世界には、未知・未解決な問題がたくさんあります。そしてその解答は、誰かが与えてくれるものではなく、我々そして皆さんが自ら課題を発見し、その解決策を見出していく必要があります。未来は皆さん自身が切り開き、創り出していくものなのです。また、科学技術がどんなに進歩・発展しても、医学というサイエンスと目の前の患者さんを繋ぐのは医療人自身であることには変わりはありません。医学科、医科栄養学科、保健学科では、アクティブ・ラーニング、海外留学プログラム、研究室配属、診療技能教育、診療現場教育、専門職連携教育等を積極的に取り入れたカリキュラムを構築しています。学生の皆さんが、自らが学ぶ姿勢を持って学修に臨むことを期待するとともに、その支援を我々は惜しみません。皆さんが学ぶ喜びを感じながら、優れた医療人へと成長していく姿を楽しみにしています。

目次

CONTENTS

巻頭言	1	海外留学体験記	9
新入生の皆様へ	2	新任教職員ご挨拶	10
先輩から医学部紹介	4	新任准教授紹介	10
学友会活動	5	退職者ご挨拶	10
医学部行事予定	5	数字で見る医学部	12
長く続く解剖学の学び：解剖実習から始まる医師への道	6	白衣授与・Student Doctor 認定証授与式	13
徳島医学会報告	7	受賞者紹介（教員）	13
第66回徳島大学解剖体慰霊祭	7	受賞者紹介（学生）	14
蔵本祭	8	編集後記	14



医学科新入生の皆様へ

医学科長 橋本 一郎

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様は難関の受験を突破して、徳島大学医学部医学科の学生として学生生活を始める事になりました。医学科の課程は、基礎医学教育と臨床

医学教育に大きく分かれます。内科や外科といった診療や医療について学ぶのが臨床医学教育です。この臨床医学を学ぶ上で非常に大切なものが、基礎医学であり、医師が他の医療関係者と比べた場合に大きく違うのが、この基礎医学に関する知識の深さです。

本学医学科では、基礎医学と臨床医学に関して講義室での授業だけでなく、様々な工夫をして学習の手助けを行なっています。入学直後から医学に触れたい学生は、研究サークル活動である Lab 部で基礎医学研究が可能です。その後の研究室配属

では好きな研究室を選んで医学研究を行うことができます。また MD-PhD コースに進学して卒業前に医学博士を取得することができます。臨床医学に進むと、症例シナリオを使用して自己決定型学習を行う PBL チュートリアルが用意されています。また、米国、ドイツ、韓国などへ在学中に留学することができます。

皆様にとって、医学学習は最も大切なことですが、大学時代は人間性を形成する大切な時期でもあります。好きな運動や趣味などを行うことは、医師になったすぐ後では難しいかもしれませんが。学生の中に、クラブ活動やサークル活動で身体を鍛えたり、英会話などを習ったり、趣味を深める、また新しいことに挑戦するのも良いでしょう。無限の可能性を秘めた新入生の皆様が過ごす6年間は、有意義であることを心から願っております。



医科栄養学科新入生の皆様へ

医科栄養学科長 酒井 徹

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これまでの受験勉強から解放され、大学生として新たな一歩を踏み出す季節となりました。

皆さんは管理栄養士制度の誕生を知っていますか？1945（昭和20）年、国は厚生省令第14号にて「栄養士規則」を制定し栄養士が誕生しました。しかしながら、栄養士は養成期間が2年であり、また無試験で与える短期大学が乱立し、学力および経験が低い栄養士が氾濫するようになりました。そこで、より高い学力とより深い経験を持ち、複雑で困難な栄養指導を行い得る栄養士の必要に迫られ、1962（昭和37）年、栄養士法の一部を改正して管理栄養士の制度を

設立させました。その時に誕生したのが徳島大学医学部栄養学科です。本学栄養学科は管理栄養士制度と共に歩んできた日本で最も歴史ある大学です。平成26年度に「栄養学科」から「医科栄養学科」へと改組を行い、臨床系の新しい疾患治療栄養学分野を設置することにより臨床栄養教育の充実と共に病院栄養部との連携を強め新しい教育カリキュラムを提供できる体制も構築しています。

私が学生だった頃、他学部の友達から、「これから栄養学は大切になる」と言われたことがあります。日常的で身近なものが大事であることを示唆したもので、その言葉は今でも心に残っています。皆さんは、これから学修する栄養学を通じて社会貢献ができるよう4年間勉学に勤んでください。



保健学科新入生の皆様へ

保健学科長 安井 敏之

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。保健学科の教員ならびに在校生一同、ご入学を心より歓迎いたします。おそらく、今、期待と不安が入り交じった気持ち

でおられることと思います。これからの大学生活は高校生活と異なり、医療人としての自分の将来像を描きながら学習していくことになります。

蔵本キャンパスには、医学部、歯学部、薬学部と医療系の3学部があり、将来、医療系の様々な分野で活躍する学生さんが集まっています。医学部には医学科、医科栄養学科、保健学科の3学科があり、保健学科には、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3専攻があります。学ぶ内容は少しずつ異なりますが、医

療人としては ONE TEAM です。勉強だけではなく、サークルなどを通していろんな学部、学科、専攻の学生さんと触れ合う機会を持ち、お互いの考えを聞き、チーム医療の基本を学んでください。皆さんが講義を受ける場所は大学病院の隣に位置し、実習も大学病院が中心です。このような臨場感あふれる場所での学習は良い刺激となり、モチベーションにもつながるでしょう。また、国際交流を高めることができるように、米国、フィンランド、フィリピンなどと協定を結んでおり、国際的視野も広げることができます。日本と異なった文化や考え方をすることはこれからの国際社会に向けて大きなチャンスになります。眉山が見えるこの学び舎で、ぜひ、いろんな機会を生かして充実した大学生活を送られることを心より期待しています。

新入生の皆さんへ



医学科4年次 山本 秀樹

これから新生活がスタートします。「ついに私も大学生!」「うまくやっていけるかな?」など色々と期待や不安があるかと思いますが、何をやるにしても「自分を磨く!」ということを目指してもらえたらなと思っています。

これまでの高校生活とこれからの大学生活では大きな違いがあり、それぞれ「テレビ型」と「YouTube型」に例えることができます。今まではテレビを見るように受動的に経験を浴びることが多かったと思います。しかし、これからはYouTubeを見るように自分が興味のあるコンテンツを取りに行くということが主流になってきます。

簡単な例で言えば、アルバイトなどがこれに当たります。私はアルバイトをするにしても「学業の妨げになるんじゃないか?」と危惧してためらっていたのですが、「自分を磨くんや!」と思い切ってやってみました。やってみると意外とどうにかなるもので、新しい観点や価値観が生まれ、随分と自分を成長させてくれたと感じています。

これはほんの一例に過ぎず、大学生活には本当に様々な選択肢があり、どれを選ぶも、あるいは選ばないも自由です。そこで、何かを選択するときは「これは自分を磨いてくれそうか?」ということを是非考えてみて下さい。

大学は学生が「大人」になるための場です。「大人」というのはただ歳をとるということではないんです。自分を磨き、多様な観点や価値観を理解することで達成できる人物です。ボーッとしては「見た目は大人! 頭脳は子供!」ということになってしまいます。嬉しいことに、徳島大学にはこの「大人」がとても多く存在します。つまり、見本が多いんです。さらに、徳島大学には他県から多くの学生が集い、色んな観点でコミュニケーションが楽しめます。これは、自分磨きのための材料が多いということです。この環境を存分に活用して自分を育てていって貰いたいと思います。長くなりましたが、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます!



医科栄養学科4年次 川原 滉太

新入生の皆様、突然ですが質問です。「あなたの居場所はどこですか?」

徳島県外から来られた方は答えづらいかもしれません。しかし今のあなたの答えを、少し無理をしてでも出してください。地元に関係あるものでもかまいません。そしてそれを書き留めてください。できましたか?

是非、毎年4月に同じ質問を自分に投げかけてください。その答えは変化していくことでしょう。

これを通して申し上げたいことは2つです。

まず1つ、これからの新たな生活に不安を感じている皆様へ。大丈夫です。前の環境の人々と同じくらい大学でも関係を築ける心配な方も多いでしょう。私もそうでした。しかし、大学は「自由」という名前の制約の中にあります。これはどんな制約よりも厳しいものです(6月くらいにこの意味がわかります)。あくまでも大学は個人主義の世界ですが、この「自由」と闘っていると自ずと協力や連携が必要です。気づいたら、大学で関わる人々は居場所になっていることでしょう。今の私は、きっとそうです。

2つめ、その居場所は永遠には続かないということ。変わっていくものだという事です。これから、「ここが私の居場所だ」

と確信する瞬間があると思います。しかし、ふとしたことでそこが居場所ではなくなってしまうかもしれない。でもそれはあなたのせいではありません。私たちにできることは、その状態を受け入れ、自分を責めないことなのです。きっとどこかに、居場所はできていきます。

では最後にもう一度、「あなたの居場所はどこですか?」新入生の皆様、ご入学誠にありがとうございます。



保健学科看護学専攻4年次 松田 葉月

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これから始まる新しい生活への期待、不安、他にも様々な思いを抱えていると思います。特に、看護学専攻では実技試験や長期にわたる病棟実習が

待っており、これから先、「本当にこの道を選んで良かったのか」と道に迷う事も、乗り越えなければならない事もたくさんあるかと思っています。忙しい毎日ですが授業に加えて、部活にサークル、バイト、ボランティア活動への参加、留学など、この大学でしか学べない事、今しかできないことを全力で楽しんでいただけたらと思います。きっと、その中で、大切な友達も見つかると思います。忙しく過ぎていく大学生活だとは思いますが、ひと時ひと時を大切に、充実した毎日を送れるように切に願っております。



保健学科放射線技術科学専攻4年次 佐藤 義秀

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。これから皆さんは数多くの科目を履修し勉強していきます。いずれは科目間の繋がりが見え、その面白さに気づくでしょう。放射線技師には様々な知識や技能が求められるので、全てが重要

です。高校までは授業で教えられた範囲のことを勉強していたかもしれませんが、大学では自分が興味を持ったものは何でも追求することをお勧めします。それが3年生の後半から行われる卒業研究につながるかもしれません。大学生活において何に楽しさを見出すかは千差万別ですが、私は勉強や研究に楽しさを見出して欲しいと思います。これからの4年間をどう過ごすかは皆さん次第です。大いに楽しんでください。



保健学科検査技術科学専攻4年次 樋笠 未有

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学受験を終え、これから始まる大学生活に期待や不安を抱えていることと思います。検査技術科学専攻は人数が少ないため仲が良く、お互いを高め合いながら学べるいいところです。

大学生は高校生よりも自由に行動できます。アルバイトでお金を貯めたり部活に全力を注いだり様々な場所に旅行に行ったりなど、自分がやりたいことを何でもやってみてください。学年が上がるにつれて実習や国試の勉強などで忙しくなり、自分がやりたいことにあまり時間を割けなくなるので、1,2年生のうちには惜しまずやっておくことをおすすめします。皆さんの大学生活が充実したものとなることを心から願っています。

先輩から医学部紹介

🌸🌸🌸 新入生のみなさんご入学おめでとうございます 🌸🌸🌸

講義について

医学科4年次 大塚 真人

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私からは皆さんがこれから受ける講義について紹介させていただきます。

まず、講義の形態についてです。大学では、受講する科目を選び、時間割を自分で組み立てることができるのが高校までの授業とは大きく異なります。科目には教養科目と専門科目があり、教養科目は受ける講義を自分で選択することができます。1年次では、教養科目の講義を多く受けるので、その分自由な選択をすることができます。例えば、自分の興味のある分野の講義を受けたり、早い時間に講義が終わる曜日をつくって部活動に取り組んだりすることができます。

次に、1年次の講義の内容についてです。教養科目は、「歴史と文化」、「人間と生命」などの分野について学ぶ一般教養科目群や、高校までと比べ、より発展的な数学、物理、生物、化学を学んだり、スポーツをしたりする基礎基盤教育科目群、英語に加えフランス語、中国語、ドイツ語から選んで外国語を学ぶ外国語教育科目群などがあります。専門科目では、2年次以降のより専門的な分野の基礎を学習します。覚えることが多く、難しい科目もありますが、講義で学ぶのは必ず必要となる知識ばかりなので、しっかり学習しておく必要があ

ります。

大学での学習は、学年が上がるほどより実践的なものとなり、日々の勉強が自分の将来の目標のためになっていると実感できるようになります。皆さんが、このような目標に向かう喜びを感じながら学習し、また実りある学生生活を送ることを願っています。



部活動・サークル活動について

医科栄養学科4年次 中村 奈由

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ始まる大学生活に期待や不安を抱いている方も多いのではないのでしょうか。私からは部活動・サークル活動について紹介します。徳島大学の蔵本・常三島キャンパスにはたくさんの部活動やサークル活動があり、蔵本の学生が常三島キャンパスの活動に参加することも可能となっています。中学校や高校にはなかったような活動などもあるため、実に多くの学生が所属し、学部学科や先輩後輩の枠を超えた交流が日々盛んに行われています。大学に入学した皆さんは、部活動とサークル活動のどちらに入ろうか、そもそも課外活動をするか、悩んでいると思います。また、勉強やバイトとの両立はでき

るのか?なども考えているかもしれません。その場合はまず各部活動・サークル活動が主催する新歓イベントに参加することをおすすめします。お花見やバーベキューなどを楽しみながら、活動内容や活動時間など新入生の皆さんが気になっていることをなんでも先輩に聞ける場となっています。また新歓時期には練習を見学したり参加したりすることもできますので、皆さんが興味を持った部活動・サークル活動には積極的に見学に行き、自分が大学生活でやりたいことを見つけたいと思います。高校と同じ部活動に入るもよし、全く経験したことのない活動を始めてみるのもよし、部活動とサークル活動を兼部するのもよしです。皆さんの大学生活が充実したものになることを願っています。



大学生協について

保健学科看護学専攻4年次 西村 泉美

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私からは徳島大学生協について紹介させていただきます。

徳島大学蔵本キャンパスには食堂の「キッチン SAKURA (さくら)」、軽食が購入できる「カフェテリア KURARA (くらら)」、文具などを取り揃えている「生協ショップ SHOKORA (しょこら)」、コンビニの「生協ショップ RAKURA (らくら)」があります。

さくらは栄養についてしっかり考えられたメニューが豊富にあり、期間限定のものも多く、飽きずに食事を楽しむことができます。くららはお弁当や飲み物などを買うことができます。購入したものは向かいに隣接しているカフェテリアスペースで食べることができます。カフェテリアスペースでは自習することもでき、多くの学生でにぎわっています。しょこらは講義に必要な教科書・文房具、実験に必要な白衣・解剖セット、小説や雑誌などの書籍とあらゆるものを多数取り揃えています。また、飛行機や高速バスのチケットや学割旅行チケットを取ることができたり、自動車教習所の申し込みもすることができます。らくらはおにぎりやパン、お菓子



などを買うことができます。ハロウィンやバレンタインなどイベント毎に合わせた商品もあり、友達とシェアして楽しむことができます。

大学生協は私たちの快適な大学生活を送るためのサポートをしてくれています。新入生のみなさんも大学生協を活用し、充実した大学生活を楽しみましょう。

学友会活動

運動部

	クラブ名	助言・指導教員		クラブ名	助言・指導教員
1	水上競技部(男女)	内田 貴之	11	合気道部(男女)	常山 幸一
2	弓道部(男女)	丹黒 章	12	水泳部(男女)	松香 芳三
3	硬式野球部	橋本 一郎	13	硬式庭球部(男女)	高木 康志
4	柔道部	谷 憲治	14	軟式庭球部(男女)	森 健治
5	空手道部(男女)	丹黒 章	15	陸上競技部(男女)	米村 重信
6	卓球部(男女)	西岡 安彦	16	準硬式野球部	島田 光生
7	バドミントン部(男女)	西岡 安彦	17	ラグビー部	鶴尾 吉宏
8	サッカー部	高橋 章	18	剣道部(男女)	久保 宜明
9	ゴルフ部(男女)	橋本 一郎	19	バレーボール部(男女)	岡久 稔也
10	バスケットボール部(男女)	川人 伸次			

文化部

	クラブ名	助言・指導教員
1	ジャグリングサークル	渡辺 浩良
2	軽音楽部	橋本 一郎
3	茶道部	竹谷 豊
4	地域医療研究会	谷 憲治
5	栄養学研究部	酒井 徹
6	外国語研究会	安倍 正博
7	室内楽同好会	赤池 雅史
8	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池 雅史
9	先端医療研究会	佐田 政隆
10	IAHSS(保健学科国際交流サークル)	田中 祐子

※入部等のお問合せについては、医学部学務課学生係(☎088-633-7982)へご連絡ください。

医学部行事予定 (令和2年4月～令和2年9月) ※変更となる可能性があります

4月1日(水)～7日(火)	医学部新入生オリエンテーション SIH 道場～アクティブ・ラーニング～ (医学科、医科栄養学科、保健学科)	4月8日(水) 新入生授業開始 (医学科、医科栄養学科、保健学科)
4月2日(木)	学生定期健康診断 (医学科・医科栄養学科1年次)	4月21日(火)～24日(金)、5月11日(月)～12日(火) 学生定期健康診断 (医学科・医科栄養学科・保健学科2年次以上)
4月3日(金)	学生定期健康診断 (保健学科1年次)	8月1日(土)～ 西日本医科学生総合体育大会(主管：鳥取大学)
4月4日(土)	医学部新入生研修 (於：大塚講堂ほか)	8月実施 徳島大学オープンキャンパス(学部説明会)



長く続く解剖学の学び：解剖実習から始まる医師への道

機能解剖学分野 教授 富田 江一

医学部で学ぶ学問の中で、解剖学が一番古い学問と言っても差し支えないでしょう。西洋では、古代ギリシャのヒポクラテスの時代以前より人体解剖が行われていたとの記述があります。日本でも、江戸時代に前野良沢や杉田玄白が人体解剖を行い、「ターヘル・アナトミア」の翻訳書「解体新書」を著したことは有名です。

現在は、医学部医学科2年生で解剖学を学習します。解剖学は、古くからある学問のため、学ぶ内容は、生理学・生化学といった他の医学部基礎系学問と比べて大きく変化してはいないかもしれませんが、それにもかかわらず、解剖学を学ぶ方法やその利用方法は、この5～10年の間に他の学問に比べて最も劇的に変化し進歩しました。さらに、医学科6年間の間に、解剖学を学ぶ機会は何度となくできます。

解剖学の教育を詳しく紹介する前に、まず解剖実習等に使用させていただきご遺体についてお話しします。ご遺体は、医学の発展のために死後お身体を医学教育・医学研究に使用して欲しいとの尊い志を持った人々の団体「徳島大学白菊会」の会員様が提供して下さったものです。こうした崇高な精神に基づいたお考え・ご行為のおかげで解剖実習等が実施可能なのです。

では、解剖学を学ぶ機会・方法の紹介に移りましょう。医学科2年生では、解剖学の講義を受講した後に、いわゆる解剖実習を行います。解剖実習では、ご遺体を解剖させていただき器管・組織を観察して、実際の人体の構造について理解を深め、それを知識として蓄積させます。以前に比べて解剖学の教科書やアトラス(図譜)もかなり洗練されて、こうした媒体からも人体の構造についてかなりの部分まで学べるようになりましたが、実際の解剖実習で学習できるレベルは、器管・組織の詳細な構造や3次元的なポイント等はるかに高度な域にあります。ただし、こうした解剖実習は昔から行われているものです。

昨年より、徳島大学医学科では、肉眼観察による解剖実習に加えて、ご遺体をすべてCT撮影して、そのCT画像と実際の人体の器管・組織を比較するという取り組みを始めました。これは、医学科生が将来医師として働き始めてから毎日といってよいほど目にするCT画像やMRI画像より、受診者の器管・組織が正常なのか病的なのかといった実際の状態を推察する能力を培うトレーニングと言えます。この解剖実習日には、臨床医の先生方にそれぞれのご遺体とCT画像を用いて講義・解説をしてもらい、医学科生のより正確な知識の会得を目指しています。こうした経験を非常に若い学生時代にできるのは、徳島大学と他に1～2校の大学だけです。さらに、外科系・一部の内科系の医師になる場合を除いては、CT画像と実際の器管・組織を直接対比できる唯一のチャンスといっても過言ではありません。



解剖実習風景

ません。

医学科4～6年生の間では、臨床医学の講義、患者さんと向き合い経験する臨床実習、再度ご遺体を使用させていただき進める臨床解剖実習を通して、臨床医になってから必要となるより専門性の高い解剖学についての知識を習得します。

では、医師になってから解剖学を直接学ぶ機会は無いのでしょうか？多くの医学科生は、医師国家試験を合格後、初期・後期臨床研修を終了してから、専門分野の臨床医師として働き始めます。ただし、臨床医として働き始めたからといって、すぐにすべての医療行為を問題なくできるわけではありません。最近、患者さんの早期の社会復帰や負担軽減のために、内視鏡下手術等の低侵襲性手術が盛んに行われるようになってきました。こうした手術方法では胸部・腹部等に開けた小さな窓から内視鏡と手術器具を身体内に挿入し手術を行うため、開胸手術・開腹手術等に比べて手術視野は狭く、かなり高度な技術と解剖学的な知識が要求され、若い臨床医がすぐに行えるものではありません。

徳島大学では、6年ほど前にClinical Anatomy Lab (CAL)が設立されました。CALとは、主にご遺体を利用させていただき、内視鏡下手術を始めとする高度な医療手技をトレーニングしたり、臨床研究を行ったりする施設です。ご遺体を使用させていただき以上、ここで行うトレーニングは解剖学の知識を復習しながら手技を上達させる作業であり、臨床研究は臨床解剖学の知識を掘り下げる研究に他ありません。現在、CALの施設を持つ大学は少しずつ増えてはいますが、当初は徳島大学を含めて約10校の大学で設置されただけで、こうした領域では徳島大学はパイオニアの大学の1つといってもいいでしょう。さらに、徳島大学のCALは日本の中でも1・2位を争う優れた設備を備えています。徳島大学で働く臨床医は、恵まれた環境の中で、医師としての研鑽を積むことが出来るのです。

以上、解剖学は、医学科に入学してから医師になってまでも、皆さんに必要な学問としてあり続けること、さらに解剖学を習得する機会は新たに増え、その習得方法は進歩していることを理解してもらえたいと思います。皆さん、一生懸命解剖学を学んでくださいね！

最後に、CT画像を利用した解剖実習を開始・実施するにあたり、本教育システムの構築にご尽力いただいた赤池医学部長、法医学分野西村教授・主田准教授、実際に講義・実習を担当していただいた胸部・内分泌・腫瘍外科学分野丹黒教授・吉田講師等の先生方に厚くお礼申し上げます。また、本システムを構築するにあたり、学長裁量経費によるご支援をいただいたことも付記させていただきます。



各解剖実習班でCT画像を閲覧するためのiPad



CT画像を閲覧するためのシステム

徳島医学会報告

■ 第260回徳島医学会学術集会(令和元年度冬期)

疾患病理学分野 教授 常山 幸一
 消化器・移植外科学分野 教授 島田 光生

第260回徳島医学会学術集会は、令和2年2月2日(日)に徳島大学大塚講堂で開催された。今回の大学側の担当は、疾患病理学分野、常山幸一教授と消化器・移植外科学分野、島田光生教授が務めた。参加者は202名(一般33名を含む)であった。

常山教授の開会挨拶に続いて、第1会場(大ホール)にて2名の教授就任記念講演が行われた。最初に、脊椎関節機能再建外科学教授の松浦哲也先生による「少年野球肘の現状と今後の展望」、次に地域循環器内科学分野教授の山田博胤先生による「心エコー・ドプラ法による心不全の診断～左室拡張機能評価と Point-of-Care 超音波検査～」の講演が行われた。引き続き、第2会場において、一般及び若手のポスターセッションが各々行われ、総計49演題の研究成果が発表され、質疑・討論が活発に行われた。

午後からは、大ホールにおいて赤池雅史医学会会長と齋藤義郎徳島県医師会会長の挨拶の後、前大会で選出された第43回徳島医学会賞及び第22回若手奨励賞の授与式が行われた。徳島医学会賞は、徳島大学消化器・移植外科の柏原秀也先生と医療法人かさまつ在宅クリニックの笠松由華先生に授与され、若手奨励賞は、徳島県立中央病院医学教育センターの山本翔子先生と秋本雄佑先生に授与された。受賞記念講演として、柏原先生による「非アルコール性脂肪肝炎(NASH)に対する新たな外科治療」と笠松先生による「徳島県における小児在宅医療の現状と今後の医学教育に期待すること～徳島大学小児医療研究会(TUPS)を通じて見えてきたもの～」の講演が行われた。

公開シンポジウムは「最先端医療を支える病理学」と題して、

最先端の外科治療から、それを支える病理診断の現状と未来について、6名のシンポジストによる講演が行われた。外科の立場から、徳島大学消化器・移植外科学、特任助教、柏原秀也先生による「消化管最新外科手術における病理の役割」、同外科学助教、斎藤裕先生による「肝胆膵外科の最先端」の講演が行われた。病理医の立場から、徳島大学病院病理部教授、坂東良美先生による「医療を支える病理診断」、同教授、上原久典先生による「病理遠隔診断(テレパソロジー)の現状と展望」、徳島大学疾患病理学教授、常山幸一先生による「AIと分子病理学の展開」の講演が行われた。最後に慶応義塾大学医学部病理学教授、坂元亨宇先生による「病理医の目・分子の目・ITの目で難治がんに挑戦する」の講演が行われた。最先端医療を支える病理学に触れるよい機会となる貴重な講演内容だった。最後に、今回のポスターセッションの中から選考された第44回徳島医学会賞及び第23回若手奨励賞の選考結果が、徳島県医師会の今井義禮先生から発表された。徳島医学会賞は徳島大学消化器・移植外科、良元俊昭先生と徳島県立海部病院、脳神経外科、影治照喜先生に、若手奨励賞は、徳島県立中央病院医学教育センター、福井亜里沙先生、山本浩生先生、山本真弘先生、徳島大学病院卒後臨床研修センター、藤井祥平先生に決定した。その後、島田光生教授が開会挨拶を行い、盛況のうちに閉会した。

本学術集会の開催にあたり、徳島県医師会、徳島医学会事務局、関係スタッフの皆様およびご参加・ご協力いただいた関係の皆様へ、心より感謝申し上げます。



第66回 徳島大学解剖体慰霊祭

蔵本事務部医学部学務課



令和元年10月4日(金)15時から徳島大学大塚講堂において、第66回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者510人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体してくださった方々の亡き御霊6535柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

蔵 本 祭

#Cœur à Cœur!! ～70th special ties～ 第35回蔵本祭実行委員長 医学科5年次 佐藤 勇樹

第35回蔵本祭実行委員長を務めさせていただきました、佐藤勇樹です。令和元年度も、学術講演を含む計3日間に渡って様々なイベントを開催することができました。今回の蔵本祭は、開学70周年記念ということもあり、学生だけでなく卒業生を含め、徳島大学全体の繋がりを強くし、より一層素晴らしい蔵本祭をつくりあげていきたいと思いを込めて「#Cœur à Cœur!! ～70th special ties～」をテーマとして開催しました。それに合わせて、蔵本祭独自の70周年記念企画やホームカミングデーに合わせた学術講演の開催など、新たな催しも行いました。本年度は例年より1週間開催が遅くカリキュラム上、蔵本祭の準備は簡単ではありませんでした。例年を超えるような蔵本祭を作り上げていこうと実行委員一同頑張りました。当日は天候にも恵まれ、全てのイベントを無事に終えることができました。また、今回は広報活動にInstagramを加えたり、時期を工夫したり、チラシを例年より多くの場所に貼らせていただいたりと、より多くの方々に蔵本祭を知っていただくことができました。蔵本祭に携わってみて、本学関係者をはじ

め、商店街やメディアの皆様など沢山の皆さんに支えられて蔵本祭が成り立っていることを学びました。後輩の皆さんにおかれましても蔵本祭を通じて貴重な経験を得ることができるよう、第36回蔵本祭の成功をお祈りいたします。最後になりましたが、第35回蔵本祭開催に当たりご尽力くださいました皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



栄養学展を終えて

第35回蔵本祭栄養学展委員長 医科栄養学科4年次 大野 帆乃夏

栄養学展は蔵本祭で出店する展示の一つで、医科栄養学科の毎年恒例のイベントの一つでもあります。医科栄養学科の2、3年生から有志を募り、毎年一つのテーマを考え、そのテーマにあった展示をしたり、料理を無料で提供したりするもので、医科栄養学科ならではの催しものと言えます。

令和元年度の栄養学展は「血液さらさらメニュー」をテーマとし、最近話題の「鯖缶」を使った、鯖のハヤシライスとぶどうゼリーを提供させていただきました。鯖には、EPA、DHA等の不飽和脂肪酸が豊富に含まれており、動脈硬化の予防に効果的であるということで、近年注目されています。ご自宅でも実践していただけるよう、リーフレットにはメニューを載せ、調理方法も比較的簡単なものを提供することを心がけました。

今年も整理券のために朝早くからお並びいただき、大変感謝しております。また、お渡ししたアンケートでは、学生を始めとする多くの方々から貴重なご意見、ご感想をいただくことが

できました。私達の「身体に良い食事を手軽に、身近に感じていただきたい」という思いに対しては、「家でも作ってみようと思う」等といった有難いお言葉もいただきました。栄養学展を通して、普段授業・実習等で学んでいることを、皆さんに発信し、お伝えできたことが良い経験となりました。この経験を生かし、医科栄養学科の名に恥じない活躍ができるよう勉学に励みたいと考えております。



最後になりましたが、栄養学展にご来場いただいた皆様、栄養学展委員と実行委員の方々、ご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

模擬病院を終えて

第35回蔵本祭模擬病院委員長 保健学科看護学専攻3年次 高橋 果子

模擬病院は、看護学専攻1、2年生の中で委員を募り、運営しております。毎年、学生だけではなく、多くの地域の方がお越しくださり、看護学専攻としても力を入れているイベントの一つです。

2019年度の模擬病院では、手浴、身体測定、血圧測定、赤ちゃん抱っこ・妊婦体験、ピアカウンセラーのブースを設けました。また、徳島市との共同事業として、子宮頸がん受診率向上キャ



ンペーンも行いました。子宮頸がんに関するクイズを作成し、来場していただいた方々に答えてもらい、説明を行いました。当日は500名を超える方々に来場していただき、感謝しております。来場していただいた方の中には、「子宮頸がん検診に行こうと思った。」「妊婦体験で男性では経験できないことを体験できて良かった。育児の大変さを知り、親に感謝しようと思った。」と言ってくださった方がいらっしやったり、様々なアドバイスをくださったりと、来年度以降の模擬病院をより良いものにできるようなご意見をたくさんいただきました。また、看護学生としてどのような学びを得ているのかを知っていただく良い機会となりました。今回の反省点は来年度の模擬病院に反映させ、今年度よりもたくさんの方に満足していただけるようなものを作り上げていくことができるように努力してまいります。

最後になりましたが、模擬病院にご来場いただいた皆様、お忙しい中、物品準備や会場設営などのために協力してくださいました先生方に心よりお礼申し上げます。

海外留学体験記



サンパウロ大学 ウィンタースクール

報告

医学科6年次 玉山美都

私はサンパウロ大学の winter school という世界中の医学生を中心とした学生が様々な分野に分かれて活動を行うプログラムに参加し、老年医学分野で約2週間を過ごしました。多くの場所を訪問し、ブラジルという違った国を知ることで、日本のことを考えるきっかけになりました。授業では意見を述べる機会が多く、医学的な内容を英語で伝えることがとても難しかったです。日系一世の女性と実際に日本語でお話する事で日本の文化を地球の裏側で大事にしてきたことを身に沁みて感じました。参加者全員での授業もたくさんあり、日本と大きく異なっていたのは、何十人もいる授業



日系一世の患者さんとその娘さん

で、学生が授業中に質問をどんどんしていくことでした。それは文化の違いであるので日本より優れているというわけではないですが、自身の学び方を考え直すきっかけになりました。今回の留学にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。



Geriatrics (老年医学) チーム



モナシュ大学 短期留学プログラム

報告

医学科4年次 神垣省吾

10月上旬から約5週間、オーストラリアのメルボルンにある Monash college に語学留学に行きました。誰も知り合いがない中で、話すことのできない英語でコミュニケーションをとることに、不安の気持ちでいっぱいでした。Listening に関してはあまり苦労することはなかったのですが、自分が話したいことを伝えることが中々出来なく苦労しました。また College で出会った人は主に中国人が多く、サウジアラビア人も結構多く、正直うまくやっつけられるか心配でした。しかし、ジェスチャーを交えながら話すことで打ち解けることができ、有意義な5週間になりました。

特に College で仲良くしていたのは、サウジアラビアの男子とクウェートの女の子で、どちらも日本のことが好きで、い

ろいろな話をして文化の違いを知りました。ここでは書ききれないほど、多くの良い体験をしました。また機会があれば、留学に行きたいです。



南イリノイ大学 短期留学

報告

保健学科検査技術科学専攻3年 野村侑香

1ヶ月間の語学留学を経て、英語でコミュニケーションをとることの楽しさと新たな世界に踏み出すことの楽しさを学びました。

平日はスピーキングや文法の授業を受け、クラスメイトや先生と学びながらも楽しい時間を過ごしました。休日には、シカゴやセントルイスに旅行に出かけました。また、南イリノイ大学のアメリカンフットボールの試合を観戦しました。観衆の多さやスタジアムの広さに圧倒され、アメリカのスケールの大きさを体験しました。寮での生活は、さまざまな国からきた学生とお互いの文化について話すことができました。今後はさらなる語学力の向上を目指して、積極的に英語を学び続けたいです。

今回、貴重で素敵な留学にご協力いただいた方々に感謝します。



新任教職員ご挨拶



臨床神経科学分野 教授 和泉唯信

令和2年2月1日付けで臨床神経科学分野（神経内科）の教授を拝命いたしました。

私は1995（平成7）年に徳島大学を卒業し広島大学、住友病院などで臨床研修をいたしました。2001（平成13）年に広島大学大学院を修了し同年4月より徳島大学に戻ってきました。専門は神経難病と認知症の病態解明と新規治療法開発です。神経難病で

は全身の筋力低下をきたし有効な治療法がない筋萎縮性側索硬化症を中心に研究しています。現在徳島大学が主管した大量メチルコバラミンによる第Ⅲ相医師主導治験の症例登録が終了しこれから統計解析を実施するところです。

まだまだ未熟者ですので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



心臓血管外科学分野 教授 秦 広樹

令和2年2月1日付けで大学院医歯薬学研究部外科系心臓血管外科学分野教授を拝命いたしました。

私は平成9年に大阪大学を卒業した後、大阪大学第一外科に入局し大阪大学および関連病院にて、主に冠動脈疾患、弁膜症、重症心不全などの成人心疾患に対する手術や再生治療に関する基礎研究、臨床治験などを行ってまいりました。加えて、心臓外科

領域でも最近注目されている低侵襲手術にも取り組んできております。

微力ではありますが、徳島・四国の医療発展に貢献できるよう診療・研究・教育に全力で取り組む所存ですので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



公衆衛生学分野 教授 森岡久尚

令和2年1月1日付けで公衆衛生学分野教授を拝命しました。平成11年に徳島大学医学部を卒業し、厚生労働省、県庁等で公衆衛生行政に携わってまいりました。また、日本大学で睡眠、飲酒等の疫学研究に取り組んでまいりました。

高齢化社会の進展を背景に、地域医療構想や地域包括ケアシステム構築の推進を目指して地域で取り組みが進められております。これらを支援できるよ

う、効果的・効率的な医療提供体制や望ましい医療・ケア等に関する研究に取り組みたいと考えております。また、顕在化している医師偏在の課題解消に貢献できるよう、地域医療に従事しながら、公衆衛生研究に取り組める体制を整備したいと考えております。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



地域看護学分野 教授 岡久玲子

令和2年2月1日付けで地域看護学分野の教授を拝命いたしました。平成20年4月に徳島大学地域看護学分野に就任以降、教育・研究・地域貢献に関する職務内容は広がりを見せ、国内外の関係機関や多職種連携を図る機会が増えてまいりました。私の担当する保健師養成教育では、地域の健康課題の多様化・複雑化に対応するため、保健師の実践能力の向

上が求められています。特に、地域の健康水準を高める社会資源の開発・システム化・施策化の能力、健康危機管理能力の強化が必要とされています。今後は、大学入学から卒業後教育までのシームレスな教育体制を構築し、高度専門職業人の育成に尽力していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
R1.10.1	採用	山下 理子	病理解析学分野
R1.10.1	昇任	西村 正人	産科婦人科学分野

異動年月日	異動内容	氏名	所属
R2.1.1	昇任	尾矢 剛志	分子病理学分野
R2.3.1	昇任	吉田守美子	血液・内分泌代謝内科学分野

退職者ご挨拶



小児科学分野 教授 香美祥二

令和2年3月末をもって小児科学分野教授を退くことになりました。平成16年7月に徳島大学教授に就任して以来、16年間にわたり教育、研究、診療に取り組んでまいりました。元気に当職を全うできたのも教職員、教室員、学生さんのおかげと心から感謝しております。小児科は新生児期、小児・学童期、青年期、生殖期という命を繋ぐ成育サイクルの健全な保持に尽力しています。これには産科、内科、外科等あらゆる診療科の先生方との協働が必要であり皆様には大変お世話になりました。今日、高度な成育医療を実践できる診療科（小児医療センター、

NICU、GCU）として活動できますことは教室員にとり大きな喜びです。教室運営におきましては、平成16年に初期臨床研修制度、平成30年度には新専門医制度がそれぞれ導入され小児医療体制の大きな変化に直面した時期でした。どちらも教室員と共に取り組み、関係病院小児科との連携で乗り切ってきたことを感謝しています。徳島大学医学部の今後益々のご発展を祈念しております。4月からは、専任の徳島大学病院長として恩返しのため徳島大学に貢献いたす所存です。引き続きよろしく申し上げます。



応用栄養学分野 教授 宮本 賢一

令和2年3月をもちまして、徳島大学を定年退職いたします。昭和50年4月に徳島大学に入学以来、昭和、平成、令和と45年間お世話になりました。平成16年4月に大学院が再編され、医学・歯学・薬学・栄養学・保健学の統合大学院である大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の発足、21世紀COEプログラム、栄養学科創設50周年記念事業、医科栄養学科への改組など、様々な、思い出が蘇ります。この間、若い学生諸君の輝ける時代とともに歩むことができ

たことは、この上ない喜びでした。特に、大半の学位取得者が教育職に就いてくれたことにとっても嬉しく思います。現在、多くの卒業生が、大学教員の中堅となって活躍しております。教え子のこういった姿を目の当たりにすると、栄養学科教員として仕事してきたことが少しは役立ったのかなと自己満足しています。医学部の益々のご発展を祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。本当に、長い間、ありがとうございました。



Professor of Nursing Rozzano Locsin, RN, PhD, FAAN

The enigmatic President of the US, the late John F. Kennedy said in his inaugural speech as the 35th President, "ask not what the country can do for you - ask what you can do for your country." This seems to me to be a very telling statement reflective of how I view retirement from Tokushima University.

although beset with constraints and challenges often with the bottom line being the financial state and burden of the university. Reaping the rewards of my efforts will take some time. Patience, compassion, competence and conscience I have learned to exhibit clearly, including the truthful dedication to service thereby making more undertakings worthy of wholesome support.

My professorial journey at Tokushima University was full of encouraging and fulfilling experiences. From fostering scholarly endeavors such as advancing the theory of Technological Competency as Caring in Nursing, to enhancing my role as a global citizen, and towards creating mutual cooperative endeavors between and among nations in the ASEAN and Japan.

My contributions to Tokushima University, I hope, will be evaluated by the demonstration of efforts to advance globalization mandates, and to demonstrate international appreciation of that which makes Japanese scholarship unique within the international scientific environment. I retire with the true feeling of satisfaction - that I have contributed to the growing demands of the professorial mandate at Tokushima University. It is, thus far, the growing stature of Tokushima University that is foremost in my thoughts and deeds.

What have I done for Tokushima University? My hope is that the five years of my scholarly life that I have given to the university have impressed valuable contributions to its research, education, and service prowess. Continuing this journey is imperative,



療養回復ケア看護学分野 教授 田村 綾子

令和2年3月末で、定年退職となりました。昭和48年4月に入学して以来、学生として看護師として教員として、半世紀近い年月を徳島大学で過ごしてまいりました。徳島大学病院脳神経外科病棟での看護師としての臨床経験を経た後、看護師を目指す学生への教育を行ってまいりました。徳島大学における看護師教育は、徳島大学医学部附属看護学校、医療技術短期大学部看護学科、医学部保健学科看護学専攻と名称を変え、さらに大学院保健科学教育部保健学専攻看護学領域博士前期課程、同博士後期課程を設置するまでに発展しました。国立大学において看護学・保健学関連の博士課程として認可される大学院は、旧医療技術短期大学部を設置していた機関

が多くを占め、これまでの徳島大学の諸先輩の皆様の絶え間ない努力と叡知の成果と常に感謝しております。しかし、私にとっては、常に、その資質を文部科学省に審査される立場でありました。幸いにも、博士前期課程・後期課程ともに教員組織審査において特別研究における丸合教員としての審査結果をいただき、看護学の教育と研究に邁進できました幸せを感じております。またその場に立ち会うことができましためぐり合わせにも感謝しております。これまで賜りました教員および事務職員の皆様からのご支援に深く感謝いたしますとともに、徳島大学の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



蔵本事務部長 米崎 正則

この度、令和2年3月末日をもちまして定年退職を迎えることとなりました。振り返ってみますと、昭和58年4月に徳島大学工学部に採用されて以来、37年間の永きに亘り、徳島大学と鳴門教育大学でお世話になりました。このうち蔵本地区での勤務年数は半分以上の20年間でありまして、一番愛着のある蔵本地区で定年退職を迎えられましたこと大変嬉しく思っています。

在職中は、学部長先生をはじめとする教員の皆様、事務部門の上司や先輩・同僚・後輩に恵まれ、その時々適切なご指導・ご支援を賜り、充実した日々を過ごすことができましたこと、心より感謝申し上げます。

医学部の今後ますますの発展と皆様のご健勝を祈念申し上げ、お礼かたがた定年退職のご挨拶とさせていただきます。

1 数字で見る医学部

～令和2年3月卒業者の進路状況～

R.2.3 現在

医 学 科	
進 路 先	合計
尼ヶ崎医療生協病院	1
医仁会武田総合病院	1
浦添総合病院	2
愛媛県立中央病院	1
岡山赤十字病院	1
沖縄県立中部病院	1
回生病院	2
春日部市立医療センター	1
川崎医科大学付属病院	1
岸和田徳州会病院	1
九州医療センター	1
京都府立医科大学付属病院	1
倉敷中央病院	3
高知大学病院	1
神戸市立医療センター中央市民病院	1
神戸大学病院	1
公立学校共済組合近畿中央病院	1
国立病院機構京都医療センター	1
国立病院機構姫路医療センター	1
さいたま赤十字病院	1
札幌医科大学病院	1
札幌東徳州会病院	1
三郷中央総合病院	1
三田市民病院	1
新百貨ヶ丘総合病院	1
製鉄改会広畑病院	1
製鉄記念八幡病院	1
聖隷佐倉市文病院	1
聖隷浜松病院	1
高槻赤十字病院	1
宝塚市立病院	1
地域医療機能維持機構神戸中央病院	1
帝京大学付属瀧の口病院	1
東京都立多摩総合医療センター	1
徳島健生病院	1
徳島県鳴門病院	2
徳島県立中央病院	8
徳島赤十字病院	7
徳島大学病院	11
徳島日赤	1
都立松沢病院	1
中津川市民病院	1
名古屋市立大学病院	2
鳴門病院	1
南部徳州会病院	1
西宮市立中央病院	1
阪南中央病院	1
姫路聖マリア病院	3
兵庫県立淡路医療センター	4
兵庫県立加古川医療センター	1
兵庫県立西宮病院	1
福岡市民病院	1
明和病院	1
横浜市立大学附属市民総合医療センター	1
りんくう総合医療センター	1
和歌山県立医科大学付属病院	1
亀田総合病院	1
吉野川医療センター	2
自治医科大学付属さいたま医療センター	2
千船病院	1
日本赤十字社和歌山医療センター	1
小 計	97
未定	5
合 計	102

医 科 栄 養 学 科	
進 路 先	合計
(株)スリムビューティハウス	1
大塚製薬工場	1
株式会社温故知新	1
株式会社 MIC メディカル	1
株式会社ニチレイフーズ	1
協同食品株式会社	1
グリコ栄養食品株式会社	1
神戸市民病院機構	1
タマノイ酢株式会社	1
独立行政法人 国立病院機構 中四国グループ	1
独立行政法人 広島市立病院機構	1
府中市役所	1
前橋赤十字病院	1
八千代病院	1
株式会社オアシス	1
株式会社スポーツフィールド	1
株式会社トモズ	1
株式会社マルコム	1
株式会社西原商会	2
松谷化学工業株式会社	1
小 計	21
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	20
お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻食品栄養科学コース	1
大阪市立大学	1
東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻	1
小 計	23
未定	5
合 計	49

保 健 学 科 : 看 護 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	17
徳島赤十字病院	2
徳島健生病院	3
医療法人 むつみホスピタル	1
石井町職員	1
徳島県職員	2
阿波市役所	1
北島町職員	1
那賀町職員	1
高松赤十字病院	1
香川大学医学部付属病院	1
坂出市職員	1
観音寺市職員	1
広島大学病院	1
広島県教育委員会	1
独立行政法人 国立病院機構 福山医療センター	1
地方独立行政法人 岡山市立総合医療センター	2
山口大学病院	1
神戸市民病院機構 西神戸医療センター	1
兵庫県職員	2
神戸大学医学部附属病院	8
西宮病院	1
姫路市職員	1
大阪医科大学附属病院	2
大阪赤十字病院	1
大阪市立総合医療センター	1
京都大学医学部附属病院	1
一般財団法人 京都工場保健会	1
(医)恒仁会 近江温泉病院	1
名古屋記念病院	1
厚木市立病院	1
国立精神・神経医療研究センター	1
聖路加国際病院	1
株式会社アイロムグループ	1
小 計	64

大 学 院 進 学	
進 路 先	合計
徳島大学大学院	7
小 計	7
教員再受験または臨時待機	4
未定	1
小 計	5
合 計	76

保 健 学 科 : 放 射 線 技 術 科 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	1
徳島県鳴門病院	1
徳島健生病院	1
田岡病院	1
川島病院	1
林病院	1
愛媛大学病院	1
松山市民病院	2
よつば循環器科クリニック	1
愛媛県職員	1
国立病院機構中国四国グループ	1
大田記念病院	1
倉敷中央病院	1
岡山朝日東病院	1
島根県職員	2
神戸大学病院	1
加古川中央市民病院	1
大阪府立病院機構	1
近畿大学病院	1
大東中央病院	1
京都工場保健会	1
中部公衆医学研究所	1
福井県職員	1
浜の町病院	1
佐世保中央病院	1
沖縄県職員	1
小 計	28
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	6
大阪大学大学院	3
宮崎大学大学院	1
小 計	10
未定	4
合 計	42

保 健 学 科 : 検 査 技 術 科 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
徳島赤十字病院	1
鳴門病院	1
鴨島病院	1
伊月病院	1
たまき青空病院	1
徳島県職員	1
愛媛大学病院	1
福山臨床検査センター	1
三田市民病院	1
協立温泉病院	1
関西医科大学病院	1
東住吉森本病院	1
若草第一病院	1
関西労働保健協会 アクティ健診センター	1
京都第一赤十字病院	1
SRL	1
小 計	18
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	1
小 計	1
合 計	19

白衣授与・Student Doctor 認定証授与式

医療教育学分野 教授 赤池 雅史



令和2年1月6日、大塚講堂にて、保護者の皆様のご列席のもと、医学科4年生120名を対象に、白衣授与・Student Doctor 認定証授与式が行われました。第一部では赤池雅史医学部長、香美祥二病院長、櫻井えつ青藍会会長からのご挨拶と久保美和さんの学生代表宣誓の後、学生ひとりずつに徳島大学病院のエンブレムが肩に刺繍された白衣と全国医学部長病院長会議発行の Student Doctor 認定証が授与されました。第二部ではキャリア形成教育として、西村明儒先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部法医学分野教授）と高木康志先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部脳神経外科学分野教授）のご講演が行われました。

スキルスラボ等でのシミュレーション教育を含む臨床実習前教育を修了し、共用試験医学系 CBT（コンピュータを用いて知識を客観的に評価する試験）と OSCE（シミュレーションによる客観的臨床能力試験）に合格した医学生は、Student Doctor として、4年次1月から6年次にかけて65週間のクリニカル・クラークシップ（診療参加型臨床実習）を履修します。この臨床実習プログラムは、徳島大学病院での45週間の学内実習、四国を中心とする徳島大学

関係医療機関での8週間の学外実習、徳島大学病院あるいは国内外の医療機関での12週間の選択実習で構成されており、学生は診療チームの一員として指導医の下で適切な教育ステップを踏みながら、学び成長していきます。最後になりましたが、この度、学生に授与された白衣は青藍会からのご寄贈によるもので、先輩の諸先生方からの白衣授与は正統的周辺参加の象徴であり、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



◆◆ 受賞者紹介 ◆◆

令和元年度岡奨学賞

- 駒 貴 明（微生物病原学分野 助教）
「HIV 感染症の克服に向けた研究」
- 内 田 貴 之（生体栄養学分野 助教）
「微小重力環境における廃用性筋萎縮発生メカニズムの解明」
※医学部および先端酵素学研究所において、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

第44回徳島医学会賞

- 良 元 俊 昭（徳島大学病院消化器・移植外科）
「LED光による新たな癌制御法の開発」
- 影 治 照 喜（徳島県立海部病院脳神経外科）
「過疎地域自治体病院において救急医療を支えるハード（ICT）とソフト（マインド） - 「医師の働き方改革」と「救急医療体制維持」の両立を目指して -」
※第260回徳島医学会学術集会（令和2年2月2日）において受賞者が選考されました。

第23回若手奨励賞

- 福 井 亜理沙（徳島県立中央病院医学教育センター）
「早期治療介入により重症化を免れた熱帯熱マラリアの一例」
- 山 本 浩 生（徳島県立中央病院医学教育センター）
「クロビドグレル再投与により診断に至った薬剤性無顆粒球症の1例」
- 山 本 真 弘（徳島県立中央病院医学教育センター）
「重症外傷の認識が遅れ、やむを得ず救急外来で緊急開腹術を行い救命に至った1例」
- 藤 井 祥 平（徳島大学病院卒後臨床研修センター）
「胃癌における免疫チェックポイント阻害薬の自己免疫疾患関連副作用（irAE）と効果との関連性について」
※第260回徳島医学会学術集会（令和2年2月2日）において受賞者が選考されました。

医学部ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー2019

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 医 学 科 | 医科栄養学科 |
| 玉 村 禎 宏
（顕微解剖学分野 助教） | 金 子 一 郎
（応用栄養学分野 助教） |
| 平 山 晃 斉
（機能解剖学分野 准教授） | 保健学科 |
| 梅 嶋 宏 樹
（機能解剖学分野 助教） | 安 井 敏 之
（生殖・更年期医療学分野 教授） |
- ※学生の投票に基づき選考される賞です。

医学部医学科ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー・イン・クリニカル・クラークシップ2019

- 医 学 科**
- 上 野 義 豊（病院救急集中治療部 助教）
 - 四 宮 加 容（眼科学分野 講師）
 - 菅 野 幹 雄（心臓血管外科学分野 助教）
 - 山 崎 裕 行（病院形成外科・美容外科 医員）
 - 山 中 千 尋（病院眼科 助教）
- ※学生の投票に基づき選考される賞です。

令和元年度医学部優秀教育賞

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 医学優秀教育賞 | 栄養学優秀教育賞 |
| 西 田 憲 生
（病態生理学分野 准教授） | 増 田 真 志
（臨床食管理学分野 助教） |
| 保健学優秀教育賞 | |
| 安 藝 健 作
（細胞・免疫解析学分野） | |
- ※医学科、医科栄養学科、保健学科の教育および学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

令和元年度 中田賞



第66回医学部卒業生(令和2年3月卒業)
勢井 萌都子

この度は、中田賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。今回の受賞にあたって、ご指導いただいた先生方をはじめ、お世話になりました皆様に心より感謝申し上げます。徳島大学では友人や家族の支えの中で、充実した6年間を過ごすことができました。徳島大学での日々を通して知識を習得し、人間性を育むことができたと思います。この受賞を励みに、医師として社会に貢献できるよう今後も精進してまいります。

令和元年度 児玉賞



第3回医科栄養学科卒業生(令和2年3月卒業)
木村 玲奈

この度は、名誉ある児玉賞をいただき大変光栄に存じます。4年間温かくご指導くださった先生方や先輩方をはじめ、切磋琢磨し合った友人、優しく見守ってくれた家族の支えがあり、非常に充実した大学生活を送ることができました。心より感謝いたします。今後もこの賞を励みとし、常にリサーチマインドと感謝の心を忘れず、社会に貢献できる人材となれるよう、日々精進してまいります。

令和元年度 看護学専攻賞



第15回看護学専攻卒業生(令和2年3月卒業)
河本 瑛里香

この度は、名誉ある看護学専攻賞をいただき大変光栄に思います。この賞をいただけたのは、親身になってご指導くださった先生方、苦楽を共にした友人、温かく見守ってくれた家族の支えがあったからです。心より感謝しております。大学生活は楽しいことばかりでなく、大変なこともありました。そのぶん大きく変わった4年間でもありました。大学での経験や学び、出会いを大切にしながら、社会に貢献できるよう、日々精進してまいります。

令和元年度 放射線技術科学専攻賞



第15回放射線技術科学専攻卒業生(令和2年3月卒業)
上野 裕己

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞をいただき大変光栄に思います。4年間熱心にご指導くださった先生方をはじめ、支えてくれた家族および苦楽を共にした友人に心から感謝致します。学生生活では様々な経験を積むことができ、成長できた4年間でした。今後もこの受賞を励みに、さらに成長し社会に貢献できるよう日々精進してまいります。

令和元年度 検査技術科学専攻賞



第15回検査技術科学専攻卒業生(令和2年3月卒業)
田中 莉央

この度は、名誉ある検査技術科学専攻賞をいただき大変光栄に思います。この賞をいただけたのは、温かくご指導くださった先生方をはじめ、先輩方、友人、職員の皆様、そして優しく見守ってくれた家族のおかげです。今後もこの賞を励みとし、理想とする臨床検査技師に少しでも早く近づけるよう日々精進してまいります。4年間ありがとうございました。

令和元年度 医学部優秀学生賞

【学生】

医学部 4 年 次: 吉田 星也
 栄養生命科学教育部博士前期課程 2 年次: 亀井 優輝
 栄養生命科学教育部博士前期課程 1 年次: 森 優樹
 保健学科看護学専攻 2 年次: 高橋 果子
 保健学科放射線技術科学専攻 4 年次: 大谷 怜
 保健学科検査技術科学専攻 4 年次: 水本 健斗
 保健科学教育部博士前期課程保健学専攻 2 年次: 松本 華穂

【学生団体】

医学部ゴルフ部 (代表者・吉田 星也)
 医学部硬式庭球部 (代表者・佐藤 光紀)
 保健学科看護学専攻: 徳島大学思春期ピアサポートチーム
 (代表・山下 奏 外 2 名)

※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。
 ※年次は選考時のものです。



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
 (平成26年3月26日)

●認定評価機関
 独立行政法人大学評価・学位授与機構

●認証期間 7年間
 (平成26年4月1日～平成33年3月31日)

編集後記



医学部だより第40号の発行にあたり、ご尽力くださった皆様に感謝いたします。今、連日のように世界を震撼させている新型コロナウイルス(COVID-19)。本医学部だよりが皆様のお手元に届くときには、どのような状況になっているのでしょうか? 収束に向かっていることを願ってやみません。人類が発祥したと同時に、人間は病と戦ってきた歴史があります。どのような新たな病が見つかって、その原因を追究し、治療法を模索し、治療を提供し看護を提供することで人々に健康をもたらします。この医学・医療の発展のために少しでも尽力できればと常に考えています。しかし、今は、手洗い、うがい、食事、睡眠に注意し、個々の免疫力を高めることが第一でしょうか。

(医学部広報委員会 副委員長 岸田 佐智)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
 広報委員 常山幸一(委員長)、勢井宏義、高山哲治、廣瀬 隼、濱田康弘、岸田佐智、米崎正則、大塚真人、中村奈由、西村泉美

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail: isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。
 なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9116 Fax: 088-633-9028 URL: https://www.tokushima-u.ac.jp/med/